

T20250430_03_OIF

[OIF](#)が単一波長 800G コヒレントラインインタフェース定義 800LR 実装合意をリリース

短距離環境でのスケラブルでエネルギー効率の高い大容量接続に対する需要が高まっており、Optical Internetworking Forum(OIF)は、単一波長の 800G コヒレントラインインタフェースを定義する 800LR 実装契約(IA)をリリースした。

IA は、固定波長を使用して最大 10km のシングルスパン、非増幅、P2P リンクを規定しており、幅広い大容量アプリケーションにわたる相互運用可能、低遅延、低電力のコヒレントソリューション向けに設計されている。

800LR IA は、データセンタ相互接続(DCI)、メトロエッジ、エンタプライズキャンパス展開などのアプリケーション向けに最適化されたコヒレントインタフェースを定義している。IA は、1 つの 800GE クライアントまたは 2 つの 400GE クライアントをサポートし、ベンダ中立の実装を促進し、エコシステム全体でイノベーションを促進する柔軟で相互運用可能なフレームワークを提供する。

IA は、従来のクライアントオプティクス密度、コスト、運用のシンプルさに匹敵するコヒレントソリューションに対する高まる需要に応じて開発された。同時に、最新のデータインフラストラクチャに必要な容量と性能を提供する。

「この IA は、進化するネットワーク需要に対応するための高速でインパクトのあるソリューションを提供する OIF のリーダーシップを強化すると同時に、イノベーションを加速し、光ネットワークエコシステム全体でスケラブルな展開をサポートする堅牢な標準ベースの基盤を提供する」と OIF のボードメンバー、Ciena の Ian Betty はコメントしている。

「帯域幅の需要が高まり、パワー効率がますます重要になって

いるので、この IA は、データセンタ内およびその周辺での大量の短距離シナリオ向けに設計された実用的な仕様となっている。これにより、次世代のコヒレント技術の広範な採用が再び可能になる。」

他の OIF IA と同様に、物理的なフォームファクタに制限は設けられていないため、マルチベンダの相互運用性を確保しながら、設計の柔軟性を最大限に高めることができる。